

# Wish

Vol.26  
July 2025

## Contents

神経病理の道

認知症の一種、  
前頭側頭型認知症について

臨床検査技師という職種、  
ご存じですか？

皆様からの声

第24回市民講演会をNCNPチャンネルにて配信中！

「脳を考える、新時代へ」

YouTube 公式



# 神経病理の道

自治医科大学脳神経内科医師 関口 和正

はじめまして。2025年4月よりNCNPブレインバンクに研究生として、所属しております関口和正と申します。これまで脳神経内科医師として臨床に従事しておりましたが、神経難病の患者様の診療に従事するなかで、一般診療だけではなく神経難病の解明や克服にむけて研究をしたいという思いから神経病理の道を選択しました。

神経内科の黎明期には神経疾患は病理によって診断されてきた歴史がありますが、CTやMRIが発達した現代においても神経疾患の最終診断は病理診断が担っています。神経診察や画像検査を組み合わせて臨床診断を確定しても、剖検での病理診断によってそれが覆るということは脳神経内科では稀ではありません。それは臨床診断が誤診であったということではなく、神経難病の病気の症状や特徴が多彩であるが故にどうしても生前の臨床診断の正確性には限界があるということです。一方で、全国的にも死後の剖検は減少傾向にあります。すなわち、神経疾患の最終診断がなされず、

医師が診断や治療経過について振り返りながら議論をする貴重な機会が少なくなりつつあります。このような議論の機会は今後の診療の質を向上させるために不可欠なもので、また、高齢化により今後ますます神経難病の患者数は増えていくことが予想されます。最近では神経難病に対する新規の抗体療法やiPS細胞による治療などの患者様にとって喜ばしいニュースも出てきております。一方で皆が待ち望む、神経疾患に対する根治療法については、まだ研究開発や病態解明をすすめていく必要があります。神経難病の治療法開発や病態解明においても実際の患者様の神経組織を使用させていただくため、脳脊髄の剖検とそれを大事に保管するブレインバンクの存在はとても重要です。

患者様とその御家族様に安心して剖検を任せいただけるようなブレインバンクスタッフの一員になれるよう、より一層の研鑽を積んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

# 認知症の一種、前頭側頭型認知症について

NCNP病院精神科医師 市川 貴一

覚える力や考える力が弱まる病気といつても、原因となる病気はたくさんあります。例えば、認知症のほか、感染症や中毒、内分泌疾患などの体全体へ影響を及ぼす原因によるものや、けがや脳の腫瘍などによって脳の機能が下がってしまうものもあります。また、認知症とひとまとめに言っても、症状や、脳の神経が変性してしまう場所や原因、遺伝子等によっていくつかの種類に分けられます。

今回は認知症の種類の一つである前頭側頭型認知症についてお話しします。名前の通り脳の前方や側方が主に障害される認知症です。認知症全体からみると10%より少ない、比較的珍しい病気です。

症状としては行動の変化、異常が多いことが特徴です。抑制が効かなくなり自分本位な行動をするようになる場合もありますが、逆に周りに無関心となり自身から行動しなくなる場合もあります。また、時刻表のように毎日決まった行動を繰り返すようになります。行動以外の症状では、言葉がうまく出てこなくなったり、筋力低下

などで体が動かしにくくなったりする場合があります。アルツハイマー病などと比べて早期には物忘れが出にくいです。

症状の始まりが40代から60代前半と若いこともあります。認知症とはじめは疑われず、性格がかわっただけではないか、うつ病などの精神疾患なのではないか、と適切な対応につながりにくいことがあります。

特定の種類のたんぱく質が脳にたまることでその部位の脳に障害が起きるのですが、メカニズムについては不明なことも多く、現時点では治療したり、進行を遅らせたりする薬は現在まだ見つかっていません。

また、脳にたまるたんぱく質にも複数種類がありますが、一般的な血液検査や画像検査では脳に何がたまっているのかはわかりません。一部のたんぱく質はPET検査での研究も進んでいますが、現時点では主に死後脳の病理検査でのみどの部位にどんなたんぱく質があるのかがわかります。原因や治療について研究するためには今後も病理での調査が必要な病気の一つです。

# 臨床検査技師という職種、ご存じですか？

NCNP病院臨床検査技師 白倉 紘美

病院では様々な人たちが働いていますが、臨床検査技師という職種はご存じでしょうか？医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士のような医療に関わる仕事がある中で、検査技師は残念ながらあまり存在を知られていません。医療ドラマなどで取り上げられる事はありますが、まだ知名度が低い職種です。

そんな私たち検査技師は、患者様の身体の一部と密接に関わる仕事をしています。例えば、病院で採血や尿検査をすると、その血液や尿は検査室へ運ばれます。そして医師が出した検査依頼をもとに、検査技師は様々な種類の検査を行います。それだけでなく、細菌やウイルスの検査をしたり、患者様と直接関わる心電図や超音波の検査も行っています。これらの結果をもとに、医師は病気を見つけるのです。

このような検査が出来るようになるためには、臨床検査技師の養成課程のある学校で学び、国家試験に合格する事が必要です。そして病院や検査センター、企業等で働きな

がら自分の専門性を極めていきます。

そして、NCNPブレインバンクにも検査技師が所属しており、主に病理検査を担当しています。病理検査とは手術や内視鏡検査、病理解剖で採取された患者様の組織や細胞を顕微鏡で観察し、詳しく調べて、病気の診断をする検査です。

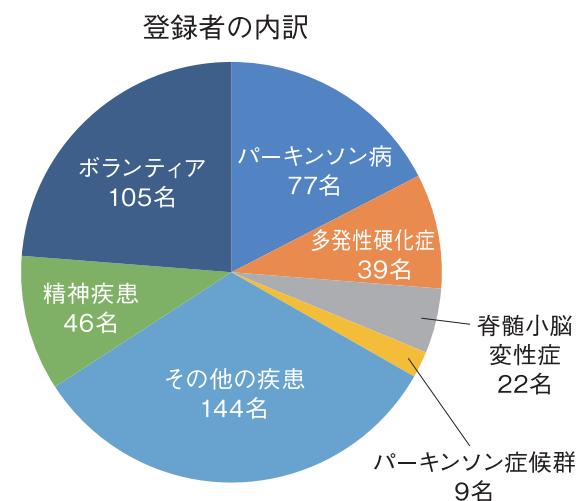
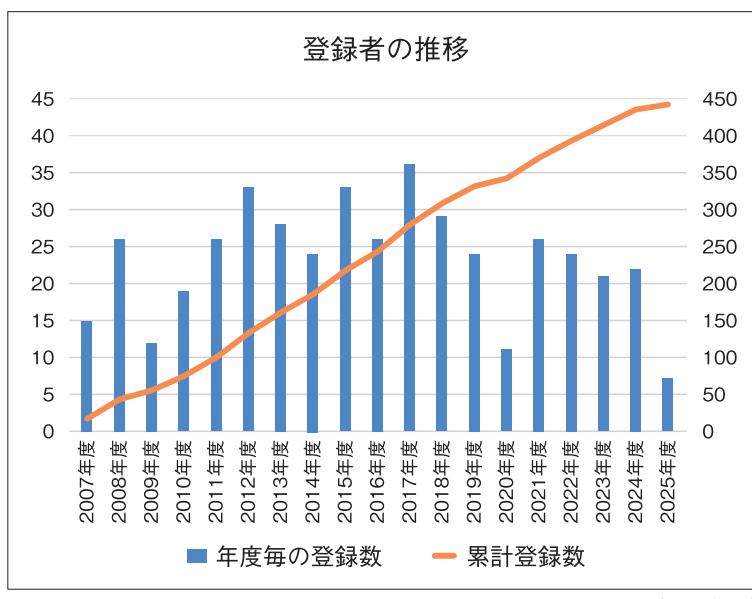
その中で私たち検査技師は、正確かつ迅速に病理診断に必要な質の高い標本を作成する役割を担っています。また、病理解剖の補助、凍結組織検体の管理、国内外の研究者に検体を発送するという事も行っています。

ブレインバンクは、医師やコーディネーター、事務担当者とともに、「縁の下の力持ち」として検査技師もメンバーに加わり、日々活動をしております。

登録して頂いた方々や、そのご家族と接する機会はほとんどありませんが、臨床検査技師という職種もブレインバンクに関わっている事を知って頂ければ幸いです。

## NCNPブレインバンク登録情報

NCNPブレインバンクの活動をお支えくださいありがとうございます。2025年5月までの累計登録者数は442人です。



2025年5月末現在

## 皆さまからのお声

ご遺族でありご自身も生前登録をされました千葉県在住の杉本正隆様より、秋田魁新報新聞に投稿されて掲載となった記事が寄せられましたのでご紹介いたします。(ご本人の了承を得ております。)

### 「献脳」

猛暑の中、妻が「献脳」を終えて都内の国立精神・神経医療研究センターから自宅に帰ってきた。ベッドでの妻の顔は、亡くなった時と少しも変わらない。穏やかでなかなかの美人だ。その生涯は77年だった。

秋田県出身の妻は、20歳を少し過ぎて見知らぬ土地に嫁いだ。60代半ばを過ぎ、現代医学では治癒の方法がないとされる脳神経系統の難病に見舞われた。以後、約10年にも及ぶ自宅での介護生活となつた。亡くなる前の3年近くは寝たきりだった。

じわじわと迫る死。絶望的な状況下でも妻は「生き延び、再びこの脚で歩く」と、自暴自棄にならなかつた。訪問診療の医師はじめ、リハビリなどの関係者が一様に「こんな患者さんは他に見たことがない…」と

驚くほど、持ち前の秋田魂で病魔との戦いに向かつていた。

車いすで移動できた時、大学病院の担当医師から献脳の話があった。治療法が確立していない疾患の解明に向け、死後に脳を提供するものだという。この時妻は「この体で社会に貢献することはできない。せめて脳を役立てたい」と話した。家族は戸惑ったが、意思は固かった。

献脳から自宅へ戻ると、担当医から「研究に全力で取り組みます。奥さまが難病に立ち向かう姿には多々教えられました」と感謝の電話があった。古里をこよなく愛し、家族のために頑張ってくれた妻を誇りに思う。棺に入った妻に、涙をこらえて「感謝しかない」と伝えた。

## 事務局からのお知らせ

2025年度のWeb市民講演会は2026年1月頃の配信開始を予定しております。  
近くになりましたら詳しいチラシを郵送いたします。  
NCNPブレインバンク・ホームページやX(旧Twitter)からもご覧になれます。

### 北本先生の お花のシリーズ



里に咲く、キンラン（金蘭、Cephalanthera falcata）です。

丁度、ゴールデンウイーク頃にかけて咲きますが、開花時期は、寒い日もありますので見頃はGWを境に前後することがあるようです。

絶滅危惧種に指定されていますが、ブレインバンクのある小平周辺にも咲くので花好きの我々の目を楽しませてくれます。高さは30cmくらいです。もし、咲いている所を見かけでも写真を撮るだけにして下さいね。こんな可愛い花ですから、盗掘被害にあう株もあるようです。

お問い合わせ 資料のご請求はこちら

**NCNPブレインバンク事務局** <https://brain-bank.ncnp.go.jp>

